



平成30年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年8月2日

上場会社名 山崎製パン株式会社
 コード番号 2212 URL <http://www.yamazakipan.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 飯島 延浩
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 会田 正久
 四半期報告書提出予定日 平成30年8月10日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・証券アナリスト向け)

上場取引所 東

TEL 03-3864-3110

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年12月期第2四半期の連結業績(平成30年1月1日～平成30年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年12月期第2四半期	529,376	1.2	14,977	△10.9	15,777	△11.5	8,712	△17.1
29年12月期第2四半期	522,979	0.4	16,816	△13.6	17,823	△9.8	10,503	11.8

(注) 包括利益 30年12月期第2四半期 11,239百万円 (△18.5%) 29年12月期第2四半期 13,790百万円 (204.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年12月期第2四半期	39.97	—
29年12月期第2四半期	47.87	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年12月期第2四半期	729,690	347,169	43.6
29年12月期	747,322	345,742	42.3

(参考) 自己資本 30年12月期第2四半期 317,784百万円 29年12月期 316,162百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年12月期	—	—	—	23.00	23.00
30年12月期	—	—	—	—	—
30年12月期(予想)	—	—	—	20.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 29年12月期 期末配当金の内訳 普通配当20円00銭 創業70周年記念配当3円00銭

3. 平成30年12月期の連結業績予想(平成30年1月1日～平成30年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,072,000	1.8	36,000	19.6	37,000	15.1	20,000	△20.3	91.75

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年12月期2Q	220,282,860 株	29年12月期	220,282,860 株
② 期末自己株式数	30年12月期2Q	2,891,208 株	29年12月期	843,554 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	30年12月期2Q	217,976,823 株	29年12月期2Q	219,439,857 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

なお、第2四半期決算短信補足説明資料の6ページにセグメント別の売上高及び営業利益の予想を記載しております。

当社は、平成30年8月7日(火)に機関投資家及び証券アナリスト向け四半期決算説明会を開催する予定です。この説明会で配布した資料等については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○ 添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11
3. 補足情報	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（平成30年1月1日～平成30年6月30日）におけるわが国経済は、景気は緩やかな回復基調で推移しましたが、個人消費は力強さを欠きました。

当業界におきましては、お客様の節約志向が根強い市場環境の下で販売競争が激化するとともに、原料価格の上昇に加え、人手不足を背景とした人件費や物流コストの増加により収益が圧迫される厳しい経営環境となりました。

このような情勢下にあります、当社グループは、品質向上と新製品開発に積極的に取り組み、「厳選100品」を中心とした主力製品の拡販につとめるとともに、高品質・高付加価値製品を開発する一方で、お客様の節約志向に対応した値頃感のある製品を投入するなど、営業・生産が一体となった部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を推進し、売上拡大をはかってまいりました。

本年2月1日、「春のパンまつり」のスタートと同時に神戸工場が竣工稼働し、食パン、菓子パンの主力製品を集中生産し、関西一円に製品供給を開始しました。新設の神戸工場を早期に軌道に乗せるため、全工場・全業態で新ラインの重点製品の拡販につとめるとともに、周辺工場の販売体制を強化し、関西・中四国地区においてフレッシュな製品提供を推進して売上向上をめざしました。

デイリーヤマザキのコンビニエンスストア事業につきましては、コンビニエンスストア事業の種蒔きの仕事である商品開発の体制を整備し品質向上と新製品開発に取り組むとともに、首都圏リージョン小委員会を定期的に開催して店舗運営の改善につとめ、ベーカリー機能の導入など店舗機能強化のための改装を推進し、店舗売上の増加をめざしました。

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は5,293億76百万円（対前年同期比101.2%）となりましたが、物流費の増加に加え、神戸工場稼働に伴う一時費用の発生や減価償却費の負担増もあり、営業利益は149億77百万円（対前年同期比89.1%）、経常利益は157億77百万円（対前年同期比88.5%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は87億12百万円（対前年同期比82.9%）となりました。

セグメント別の状況

<食品事業>

食品事業の主要製品別の売上状況は次のとおりであります。

①食パン部門（売上高511億91百万円、対前年同期比100.8%）

食パンは、関西・中四国地区を中心に全国で販売強化した「ロイヤルブレッド」が好調に推移し、本年1月に発売した健康志向製品の「ダブルソフト全粒粉」が寄与して「ダブルソフト」シリーズが大幅に伸長するとともに、レーズン価格の急騰を受け本年5月1日出荷分から価格改定を実施した「レーズンゴールド」の取扱拡大につとめたこともあり、堅調な売上となりました。

②菓子パン部門（売上高1,832億35百万円、対前年同期比101.3%）

菓子パンは、「ホワイトデニッシュショコラ」などのペストリーや「ケーキドーナツ」などのドーナツが好調に推移し、少し小振りで具材を充実させた新規格のコッペパンが大きく伸長するとともに、当社独自の技術でルヴァン種を使用した「塩バターフランスパン」が伸長し、売上は前年同期を上回りました。

③和菓子部門（売上高337億11百万円、対前年同期比98.2%）

和菓子は、品質向上をはかった「具たっぷり」シリーズの中華まんが順調に推移しましたが、串団子やまんじゅうに加え「苺大福」などの季節製品が伸び悩み、売上は前年同期を下回りました。6月中旬以降、主力の大福、まんじゅう、どら焼きの消費期限を延長して取扱拡大をはかったことにより、売上回復の兆しが見えてまいりました。

④洋菓子部門（売上高669億50百万円、対前年同期比100.6%）

洋菓子は、主力の2個入り生ケーキや「まるごとバナナ」などのチルドケーキが伸長するとともに、「大きなシュークリーム」シリーズやスナックケーキの「イチゴスペシャル」が伸長するなど、売上は前年同期を上回りました。

⑤調理パン・米飯類部門（売上高793億98百万円、対前年同期比104.1%）

調理パンは、「こだわりソースの焼きそばパン」などのロールパンが好調に推移するとともに、(株)サンデリカにおいて大手コンビニエンスストアチェーンとの米飯類の取引が拡大したことに加え、大徳食品(株)において多加水麺設備を導入し、うどんや中華麺の品質向上をはかった調理麵の売上が拡大し、調理パン・米飯類は好調な売上となりました。

⑥製菓・米菓・その他商品類部門（売上高810億20百万円、対前年同期比101.7%）

製菓・米菓・その他商品類は、(株)不二家の「ルック」などのチョコレートや(株)東ハトの「ポテコ」などのスナックが好調に推移しました。また、ヤマザキビスケット(株)は、昨年12月発売の「ノアール」や「ルヴァンプライムスナック」、「ルヴァンクラシカル」の拡販につとめるとともに、「ノアールミニサンド」、「ノアールソフトクッキー」、「ルヴァンプライムサンド」などの関連製品を投入して製品群を充実強化し取扱拡大をはかりました。

以上の結果、食品事業の売上高は4,955億8百万円（対前年同期比101.5%）、営業利益は146億43百万円（対前年同期比88.4%）となりました。

<流通事業>

デイリーヤマザキのコンビニエンスストア事業につきましては、原材料や製法の見直し等、品質向上をはかったベストセクションおにぎりを本年2月から全国発売し、5月には「助六寿司」や「いなり寿司」の品質向上を行い、お客様の好評を得るとともに、麵の品質を向上させた調理麵が好調に推移しました。既存店売上は前年同期を上回りましたが、直営店舗数の減少により営業総収入は285億68百万円（対前年同期比97.0%）となり、営業損失は7億97百万円（前年同期は8億13百万円の営業損失）となりました。

<その他事業>

その他事業につきましては、売上高は52億99百万円（対前年同期比102.8%）、営業利益は11億94百万円（対前年同期比149.0%）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は7,296億90百万円で、前連結会計年度末に対して176億32百万円減少しました。流動資産は2,609億42百万円で、借入金の返済等により、前連結会計年度末に対して230億66百万円減少しました。固定資産は4,687億47百万円で、有形固定資産の新規取得等により、前連結会計年度末に対して54億33百万円増加しました。負債合計は3,825億20百万円で、支払手形及び買掛金等の支払債務の減少や借入金の返済により、前連結会計年度末に対して190億59百万円減少しました。純資産は3,471億69百万円で、自己株式の取得による減少がありましたが、利益剰余金の増加等により、前連結会計年度末に対して14億26百万円増加しました。

この結果、自己資本比率は43.6%となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益145億46百万円に加え、減価償却費182億50百万円、売上債権額の減少110億16百万円などにより289億61百万円のプラスとなりました。前年同期に対しては141億52百万円収入が減少しました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出などにより221億75百万円のマイナスとなりましたが、前年同期に対しては104億42百万円支出が減少しました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の返済、配当金の支払などにより170億73百万円のマイナスとなり、前年同期に対しては36億22百万円支出が増加しました。

以上の結果、現金及び現金同等物の当第2四半期連結会計期間末残高は1,189億24百万円となり、前連結会計年度末残高に対しては103億28百万円の減少となりました。

(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しといたしましては、わが国経済は、緩やかな回復基調が続くことが期待されますが、当業界におきましては、お客様の節約志向が続き販売競争が激化する中で、主原料である小麦粉などの原料価格や物流コストが上昇し、経営環境は厳しさを増すものと予測されます。

このような状況下にあります、当社グループは、引き続き、品質向上と新製品開発に積極的に取り組み、営業・生産が一体となった部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を推進し、業績向上をめざしてまいります。

本年4月から輸入小麦の政府売渡価格が引き上げられたことを受けて、7月から業務用小麦粉が値上げされました。小麦粉の値上げは3回連続となり、この間、人件費や物流コストの増加に加えエネルギーコストも上昇していることから、当社は、引き続き高品質で安全・安心な製品を提供するため、本年7月1日出荷分から、食パンや菓子パンの主力70品について平均3.8%の値上げを実施しました。今後、消費者キャンペーン等を活用して主力品の取扱いを拡大して販売数量を確保するとともに、売上上位品に販売を集中することにより適正なアイテム管理を行い生産面・物流面の効率化につとめ、業績向上をめざしてまいります。

また、神戸工場の最新の生産設備と増強された生産能力を最大限活用し、パン類の主力品の集中生産工場として高品質な製品を供給するとともに、関西エリアの効率的な生産・販売・物流体制を再構築いたします。また、生産移管をした大阪第一工場をはじめとする関西地区の各工場および中京地区、中国地区の各工場が、お客様に喜ばれる価値ある製品開発を推進し、売上向上をめざしてまいります。

デイリーヤマザキ事業につきましては、商品本部において、コンビニエンスストア事業の種蒔きの仕事である商品開発の体制を充実強化するとともに、適正収益を確保する商品仕入体制の強化をはかり、業績向上をめざしてまいります。

また、ヤマザキビスケット(株)につきましては、引き続き「ノアール」や「ルヴァンプライムスナック」、「ルヴァンクラシカル」の新ブランドの定着に取り組み、関連製品とともに取扱拡大をはかり、売上の拡大をめざしてまいります。

さらに、当社グループ一丸となって内部管理体制の充実と業務の効率化をはかり、新しい価値と新しい需要を創造して所期の目標達成をめざし努力してまいります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	132,850	121,882
受取手形及び売掛金	111,765	100,941
商品及び製品	11,693	11,934
仕掛品	1,167	695
原材料及び貯蔵品	9,565	9,133
繰延税金資産	3,984	3,653
その他	13,342	13,066
貸倒引当金	△360	△366
流動資産合計	284,009	260,942
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	365,906	378,703
減価償却累計額	△271,742	△274,197
建物及び構築物(純額)	94,164	104,505
機械装置及び運搬具	477,236	490,759
減価償却累計額	△399,595	△405,741
機械装置及び運搬具(純額)	77,640	85,018
工具、器具及び備品	31,992	32,831
減価償却累計額	△24,638	△25,141
工具、器具及び備品(純額)	7,354	7,690
土地	109,569	109,065
リース資産	15,519	14,627
減価償却累計額	△10,220	△9,749
リース資産(純額)	5,299	4,878
建設仮勘定	13,473	2,464
有形固定資産合計	307,502	313,623
無形固定資産		
のれん	10,887	10,279
その他	8,665	8,217
無形固定資産合計	19,553	18,496
投資その他の資産		
投資有価証券	86,358	88,427
長期貸付金	800	777
退職給付に係る資産	681	682
繰延税金資産	19,379	18,086
その他	31,858	31,510
貸倒引当金	△2,820	△2,856
投資その他の資産合計	136,258	136,627
固定資産合計	463,313	468,747
資産合計	747,322	729,690

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	79,699	75,100
短期借入金	54,578	54,030
リース債務	2,109	1,895
1年内償還予定の社債	140	140
未払法人税等	9,308	6,659
未払費用	39,647	37,130
賞与引当金	4,359	4,237
販売促進引当金	1,156	1,070
店舗閉鎖損失引当金	60	17
資産除去債務	59	42
その他	44,132	43,537
流動負債合計	235,254	223,862
固定負債		
社債	370	300
長期借入金	40,823	35,349
リース債務	3,643	3,325
役員退職慰労引当金	4,092	3,556
環境対策引当金	44	39
退職給付に係る負債	105,180	103,845
資産除去債務	4,458	4,511
その他	7,713	7,730
固定負債合計	166,325	158,658
負債合計	401,580	382,520
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,014	11,014
資本剰余金	9,667	9,667
利益剰余金	276,934	280,599
自己株式	△897	△5,240
株主資本合計	296,718	296,040
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	33,915	35,365
繰延ヘッジ損益	—	0
土地再評価差額金	99	99
為替換算調整勘定	△44	△143
退職給付に係る調整累計額	△14,526	△13,577
その他の包括利益累計額合計	19,443	21,743
非支配株主持分	29,580	29,385
純資産合計	345,742	347,169
負債純資産合計	747,322	729,690

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年6月30日)
売上高	522,979	529,376
売上原価	331,970	337,766
売上総利益	191,009	191,610
販売費及び一般管理費	174,192	176,632
営業利益	16,816	14,977
営業外収益		
受取利息	42	48
受取配当金	569	632
固定資産賃貸収入	358	322
持分法による投資利益	53	86
雑収入	742	496
営業外収益合計	1,767	1,587
営業外費用		
支払利息	426	421
固定資産賃貸費用	106	168
雑損失	227	197
営業外費用合計	760	787
経常利益	17,823	15,777
特別利益		
固定資産売却益	36	69
収用補償金	244	—
その他	12	3
特別利益合計	293	72
特別損失		
固定資産除売却損	704	603
災害による損失	—	290
減損損失	454	220
その他	134	189
特別損失合計	1,293	1,303
税金等調整前四半期純利益	16,823	14,546
法人税等	6,184	5,497
四半期純利益	10,638	9,048
非支配株主に帰属する四半期純利益	134	336
親会社株主に帰属する四半期純利益	10,503	8,712

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年6月30日)
四半期純利益	10,638	9,048
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,498	1,466
繰延ヘッジ損益	0	0
為替換算調整勘定	188	△221
退職給付に係る調整額	1,444	948
持分法適用会社に対する持分相当額	20	△2
その他の包括利益合計	3,151	2,191
四半期包括利益	13,790	11,239
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	13,638	11,012
非支配株主に係る四半期包括利益	151	227

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	16,823	14,546
減価償却費	17,640	18,250
減損損失	454	220
災害損失	—	290
のれん償却額	635	608
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	52	40
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△507	△122
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	1,313	40
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	78	△535
受取利息及び受取配当金	△611	△680
持分法適用会社からの配当金の受取額	110	107
支払利息	426	421
投資有価証券売却損益 (△は益)	△12	—
持分法による投資損益 (△は益)	△53	△86
固定資産除売却損益 (△は益)	667	533
収用補償金	△244	—
投資有価証券評価損益 (△は益)	—	36
売上債権の増減額 (△は増加)	24,091	11,016
たな卸資産の増減額 (△は増加)	50	349
仕入債務の増減額 (△は減少)	△5,580	△4,552
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△1,236	△1,751
その他	△4,566	△2,970
小計	49,531	35,763
利息及び配当金の受取額	611	681
利息の支払額	△429	△432
法人税等の支払額	△6,751	△7,025
その他	152	△26
営業活動によるキャッシュ・フロー	43,114	28,961
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額 (△は増加)	254	575
有形固定資産の取得による支出	△30,376	△21,798
有形固定資産の売却による収入	110	119
無形固定資産の取得による支出	△438	△913
投資有価証券の取得による支出	△270	△16
投資有価証券の売却による収入	15	—
賃貸固定資産の取得による支出	△1,682	△57
貸付けによる支出	△23	△2
貸付金の回収による収入	56	46
その他	△264	△128
投資活動によるキャッシュ・フロー	△32,617	△22,175

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年6月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額 (△は減少)	△25	△165
リース債務の返済による支出	△1,592	△1,201
長期借入れによる収入	2,263	2,700
長期借入金の返済による支出	△9,389	△8,536
社債の償還による支出	△320	△70
自己株式の取得による支出	△1	△4,343
配当金の支払額	△3,939	△5,033
非支配株主への配当金の支払額	△448	△422
財務活動によるキャッシュ・フロー	△13,451	△17,073
現金及び現金同等物に係る換算差額	21	△41
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△2,933	△10,328
現金及び現金同等物の期首残高	104,344	129,253
現金及び現金同等物の四半期末残高	101,410	118,924

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成30年2月14日開催の取締役会決議に基づき、自己株式2,047,300株の取得を行っております。この結果、当第2四半期連結累計期間において、自己株式が4,343百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末において自己株式が5,240百万円となっております。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成29年1月1日至平成29年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	食品事業	流通事業	その他 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	488,378	29,445	5,155	522,979	—	522,979
セグメント間の内部売上高 又は振替高	4,307	3,394	17,710	25,411	△25,411	—
計	492,685	32,839	22,865	548,391	△25,411	522,979
セグメント利益又は損失(△)	16,564	△ 813	801	16,553	263	16,816

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額263百万円は、セグメント間取引の消去であります。

2 セグメント利益又は損失は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成30年1月1日至平成30年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	食品事業	流通事業	その他 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	495,508	28,568	5,299	529,376	—	529,376
セグメント間の内部売上高 又は振替高	4,223	3,345	22,341	29,909	△29,909	—
計	499,731	31,913	27,641	559,286	△29,909	529,376
セグメント利益又は損失(△)	14,643	△ 797	1,194	15,039	△ 62	14,977

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△62百万円は、セグメント間取引の消去であります。

2 セグメント利益又は損失は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 補足情報

(1) 連結販売実績

(単位：百万円)

セグメント名称	区 分	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年6月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年6月30日)		比 較 増 減	
		金 額	構 成 比	金 額	構 成 比	金 額	前年同期比
食品事業	食 パ ン	50,766	9.7%	51,191	9.7%	424	100.8%
	菓 子 パ ン	180,797	34.6	183,235	34.6	2,437	101.3
	和 菓 子	34,334	6.6	33,711	6.4	△ 623	98.2
	洋 菓 子	66,566	12.7	66,950	12.6	384	100.6
	調理パン・米飯類	76,280	14.6	79,398	15.0	3,118	104.1
	製菓・米菓・その他商品類	79,632	15.2	81,020	15.3	1,387	101.7
	食 品 事 業 計	488,378	93.4	495,508	93.6	7,129	101.5
流 通 事 業	29,445	5.6	28,568	5.4	△ 876	97.0	
そ の 他 事 業	5,155	1.0	5,299	1.0	144	102.8	
合 計	522,979	100.0	529,376	100.0	6,397	101.2	

(2) 主要子会社実績

(単位：百万円)

	売 上 高				営 業 利 益			
	前第2四半期	当第2四半期	増 減 額	増 減 率	前第2四半期	当第2四半期	増 減 額	増 減 率
(株)不二家〈連結〉	51,507	51,625	117	0.2%	200	886	685	341.7%
(株)サンデリカ	55,891	57,373	1,482	2.7	1,306	951	△ 354	△27.2
(株)ヴィ・ド・フランス	16,788	16,915	127	0.8	134	187	52	39.0
ヤマザキビスケット(株)	16,093	16,302	208	1.3	412	363	△ 48	△11.9
(株)東ハト	12,383	13,002	618	5.0	556	520	△ 36	△ 6.6

(3) 平成30年12月期第2四半期の単体業績 (平成30年1月1日～平成30年6月30日)

① 単体経営成績

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年12月期第2四半期	376,698	1.1	11,217	△14.3	13,273	△11.7	8,393	△14.9
29年12月期第2四半期	372,543	0.9	13,094	△0.9	15,030	4.2	9,867	29.4

② 単体財政状態

	総資産		純資産	
	百万円		百万円	
30年12月期第2四半期	552,231		298,112	
29年12月期	560,736		297,703	

(注) 単体業績数値は、四半期財務諸表等規則に基づいて作成しておりますが、法定開示におけるレビュー対象ではありません。

(4) 単体販売実績

(単位: 百万円)

期別 品種別	前第2四半期 (自平成29年1月1日 至平成29年6月30日)		当第2四半期 (自平成30年1月1日 至平成30年6月30日)		比較増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	前年同期比
食パン	51,162	13.7%	51,645	13.7%	482	100.9%
菓子パン	167,606	45.0	169,876	45.1	2,270	101.4
和菓子	34,337	9.2	33,694	8.9	△642	98.1
洋菓子	46,828	12.6	48,401	12.9	1,573	103.4
調理パン・米飯類	23,870	6.4	25,647	6.8	1,777	107.4
製菓・米菓・その他商品類	22,440	6.0	22,108	5.9	△331	98.5
小計	346,245	92.9	351,375	93.3	5,129	101.5
デイリーヤマザキ事業	32,839	8.8	31,913	8.5	△926	97.2
内部消去	△6,541	△1.7	△6,590	△1.8	△48	—
合計	372,543	100.0	376,698	100.0	4,154	101.1